京城日報
朝刊
本日朝夕刊共六頁

大東亞戰爭の初論功行賞

畏し、殉國の英靈に御拜

けふ靖國神社に行幸啓

【東京電話】殉忠の英靈一萬五千廿一柱を新たに神と祀る靖國秋の臨時大祭第二日の儀が嚴かに執り行はれるけふ十六日、畏くも 天皇、皇后兩陛下には聖駕ならびに玉鑾を菊花薫る九段の御社に進めさせられ殉國の英靈に御拜あらせられる、この日 天皇陛下には陸軍御軍裝に大勳位副章功一級金鵄勳章御佩用、百武侍從長、蓮沼侍從武官長、石川行幸主務官以下供奉の略式自動車鹵簿にて午前十時宮城御出門、御順路を靖國神社に行幸あらせられ、三萬遺族などの奉拜裡に社殿前に着御、山田宮司の御先導にて祓所に進ませられ御手水、御修祓の御のち鈴木宮司御先導申上げて本殿内の御拜座につかせられ親しく御玉串を御奉奠御親拜あらせられる、この時刻十時十五分を期して全國民はそれぞれの在所において靖國の英靈に一分間の默禱祈念を捧げまつるのである、御親拜を終へさせられた陛下には同二十分ごろ同神社發御還幸あらせられる、ついで皇后陛下には紺白の御洋裝に勳一等寶冠章副章を御佩用、保科女官長陪乘、廣幡皇后宮大夫、三井行啓主務官以下供奉の略式自動車鹵簿にて同十時卅五分宮城御出門、同神社に行啓御直拜あそばされて還啓あらせられる、かくて皇后陛下還啓の御のち各皇族殿下の御拜禮、諸員拜禮、遺族の昇殿拜禮が行はれて大祭第二日の儀が滯りなく終了する

十時十五分 全國民一分間默禱祈念

妃殿下御二十二方に 事變從軍記章を御授與

【東京電話】畏くも 天皇陛下には ……妃殿下ほか御廿一方の皇族、王公族妃殿下に支那事變從軍記章を御授與遊ばされた、各妃殿下には支那事變勃發以來日本赤十字社名譽社員、同社篤志看護婦人會名譽會員および愛國婦人會名譽會員または總裁として傷病將兵の御慰問に御盡瘁遊ばされ、また屢々傷病將兵御慰問のため地方御差遣の御重責を御遂行遊ばさるゝなど軍務御幇助の御辛勞に對し奉りては一億國民の唯々恐懼感激に堪へないところであつたが、この度畏きあたりより支那事變從軍記章を御授與遊ばされたことは洵に畏き極みである

大勳位雍仁親王妃 勳一等 勢津子殿下
大勳位宣仁親王妃 勳一等 喜久子殿下
大勳位載仁親王妃 勳一等 智惠子殿下
故大勳位依仁親王妃 勳一等 周子殿下
大勳位博恭王妃 故勳一等 經子殿下
故大勳位博義王妃 勳一等 朝子殿下
故大勳位多嘉王妃 勳一等 伊都子殿下
故大勳位恒久王妃 故勳一等 昌子內親王殿下
……
勳二等 贊 珠殿下

關東州にも侍從を御差遣 普く外地にまで大御心

【東京電話】畏くも 天皇陛下にはさきに大東亞戰爭下一億總努力の實情を視察せしめられる畏き御思召しから八侍從を內地各地に御差遣遊ばされ、引つゞき朝鮮、樺太にも侍從を御差遣あらせられ銃後增產に、防空に敢鬪する銃後民草の姿を具さに御聽取遊ばされたと承るが、この度さらに同樣の御思召しから關東州にも侍從德川義寬氏を御差遣あらせられる旨十五日御沙汰あらせられた、いまや海に、陸に赫々たる戰果をあげ銃後また滅私奉公の誠を盡して戰爭敢鬪する秋、普く外地にまで大御心を注がせ給ふと承るは洵に畏き極みである、畏き聖旨を奉戴した同侍從は近く現地へ出發、現地產業一體となつて敢鬪する有のまゝの狀況を具さに視察することになつてゐる

東條對滿事務局總裁謹話

今般畏くも、御思召しをもつて關東州に侍從を御差遣遊ばされ、戰時下における管內一般狀況とくに州民一致努力の有樣を視察せしめらるゝ旨の御沙汰を拜しまして恐懼感激に堪へない次第であります、そもそもこの度の侍從御差遣は北方の關門關東州において日本人が大東亞戰爭完遂のため銃後國民として眞摯なる努力を傾けつゝある樣相ならびに管內滿洲國人側が聖戰遂行に衷心協力しつゝある實情を審に視察せしめらるる趣きと拜察致しまして叡慮のほど洵に畏き極みであります、關東州民一同もこの有難き御沙汰を拜しますます粉骨碎身總力擧ぐに努めて聖旨に應へ奉らねばならぬと存ずるものであります

小倉侍從全北へ

【大田電話】慶尙北道に差遣の小倉侍從は、十五日午前九時松村忠南道知事、宮本警察部長の案內で宿舍を出發、公州經由同十一時扶餘に到着、直ちに神宮御造營現況視察ののち扶餘陳列館に黃蕃……食をとりこれより博物分館を視察、……年後二時全北へ向け出發した

定期敍位

【東京電話】畏き邊りでは正四位子爵……氏を從三位に敍せられたほか、文武官、華族千九十五名に對し十五日定期敍位の御沙汰あらせられた

外務辭令（十五日附）

……

武功卓越の軍神・勇士らに

極限功級敍賜の御沙汰

【東京電話】大東亞戰下再び迎へた靖國神社秋の臨時大祭は十四日から秋氣清き九段の杜に嚴かに執り行はれ戰歿將兵の遺芳千歲に榮ゆる時、畏き邊りでは支那事變における陸軍側戰歿者に對し最終の論功行賞の御沙汰あらせられ、同時に大東亞戰爭において護國の華と散つた陸海軍將兵に對し初の行賞の御沙汰あらせられ、十六日附陸海軍兩省および賞勳局から第一回大東亞戰爭死歿者行賞（陸軍第一回）第五十八回支那事變死歿者行賞（陸軍第四十二回）第一回大東亞戰爭死歿者行賞（海軍第一回）として發表された、聖恩の宏大無邊ただ〱感激の極みである、……なほ今回恩賞の御沙汰中の行賞である、即ち殊勳中尤に武功卓越なるものは一躍極限功級、即ち將官功三級、尉官功五級、准・下士官功四級、兵功五級……勅令第六百五十五號金鵄勳章敍賜條例中第二條……によらず、武功卓越して優賞すべしと認定したる場合に……の敍賜を拜したものである

朝鮮關係

＝支那事變第二次＝

功四旭八 林 茂 全南
同 白色 金山德範 平北
同 旭八 海原健吉 同

優賞に輝く空の軍神加藤少將及び布哇特別攻擊隊の九軍神【寫眞＝（右上から）加藤建夫少將、岩佐直治中佐、橫山正治少佐、古野繁實少佐、廣尾彰大尉、（左上から）佐々木直吉少尉、橫山薰範少尉、稻垣清兵曹長、上田定兵曹長、片山義雄兵曹長】

加藤少將に特旨功二

金鵄の榮三千九百八十六名

陸軍行賞

十六日畏くも大東亞戰爭の死歿者において將官一名、優賞者四十五名、支那事變死歿者において鈴木麗太郎少佐をはじめとする優賞者二名にて、金鵄勳章授與の光榮に浴したのは軍神特旨功二級の加藤建夫少將をはじめとして總數三千九百八十六名である、加藤少將はさきに仰出された金鵄勳章敍賜條例によつて特旨をもつて功二級を賜つたもので陸軍として最初の光榮である、なほ今回發表されなかつた死歿者については逐次調査完了を待ち恩賞の沙汰あるものと拜察される（十月十六日附陸軍省發表）今般支那事變および大東亞戰役死歿者に對し論功行賞あらせらるべき旨優渥なる御沙汰を拜したり、右は支那事變死歿者については第一回の行賞にして金鵄勳章敍賜の光榮に浴したるはそのうち三千九百八十六名なり

殊勳甲

＝支那事變の部＝
……
＝大東亞戰爭の部＝
少將 加藤建夫（北海道）
……

優賞に輝く六十六名

九軍神以下に破格の恩命

海軍行賞

畏き邊りでは十六日大東亞戰爭死歿者海軍側第一回論功行賞の御沙汰あらせられた、今回行賞の恩命に浴した者は米國が對日進攻最大の牙城と誇る布哇眞珠灣を攻擊、一擧にして太平洋艦隊主力擊滅の偉功を樹てた布哇攻擊空襲部隊五十九勇士をはじめとし、その後二月中旬までに太平洋方面において力戰奮鬪、散華せる艦船部隊の將士中の一部で、功三、旭二を授與されたるは三名で大竹壽雄少將以下六十六名に對しては成績拔群なるを嘉せられ優賞の一部は過日改正せられたる金鵄勳章條例の最初の適用を受くるの破格の恩命に浴した

海軍省公表（十六日午前零時）今般大東亞戰爭死歿者に對し第一回論功行賞の御沙汰あらせられ、七年二月中旬迄に奮戰散華せる艦船部隊將士中の一部などを合し計九百八名にして特に特別攻擊隊および特旨優賞の最初の適用を受くるの恩命に浴したり

將官

功三旭二 海軍中將從四勳三 八代祐吉
功四中綬 同 同 加藤行雄

優賞

＝布哇空襲部隊＝
……
＝特別攻擊隊＝
……
＝その他＝
……

一般 佐官以上

……

盡忠、眞珠灣に散る

海鷲勇士自爆、戰死の狀況

【東京電話】大東亞戰爭劈頭眞珠灣攻擊に參加し壯烈な戰死を遂げ今回の行賞で優賞の榮譽に輝いた海鷲勇士の散華の狀況は次の如くである
……

故酒井中將葬儀 十八日執行

【東京電話】浙贛作戰の第一線兵團長として陣頭指揮中、去る五月廿八日蘭溪で壯烈な戰死を遂げた酒井直次中將の葬儀は教育總監部本部長清水季矩中將葬儀委員長となり、來る十八日午前九時卅分から青山齋場において佛式により執行され、引續き同十一時より正午まで告別式が行はれる

海軍辭令（十五日附）

海軍造兵大佐 塚原盛……

輝く"特旨優賞"の榮

思ひがけぬ御沙汰

感激を語る軍神加藤未亡人

【東京電話】一億國民齊しく仰ぐ空の軍神加藤建夫少將『加藤の前に加藤なく加藤の後に加藤なし』と謳はれる不出世の名飛行隊長の不滅の武勳は大東亞戰々歿者第一回行賞の筆頭を飾つて功二、旭三の特旨恩賞に輝いた、洛陽、南寧の大空中戰をはじめ支那各地で樹てた赫々の武勳は功四、旭五の生存者行賞に榮えたが、大東亞戰勃發以來マレー、スマトラ、ジヤワ、ビルマの各地に轉戰して敵機を撃墜すること二百七十機、ビルマアキヤブに壯烈な自爆を遂げるまで感狀をうけること七度の偉勳はここに金鵄勳章條例改正による陸軍最初の特旨行賞の榮に浴したのである、田鶴子未亡人が母堂、三人の遺兒を守る東京市中野區鷺宮二ノ九〇五の軍神の家には未だ少將の遺徳を慕つて靈前に額づく人が絶えない、恩賞の報を齎せば田鶴子未亡人は

『思ひもかけぬ御沙汰で殊に功二とは何かお間違ひではないかとさへ思ひました、前回の恩賞でさへ身に餘ることと思つてをりましたのに戰死して僅か五ケ月もたちませぬのに他の立派な働きをなさつた方々に魁けて破格の恩賞に預りまして地下の加藤も聖恩の忝けなさに感泣致してゐることでせう』

と祭壇に飾られた少將の遺影を仰ぎつゝ感激して語つた

【寫眞＝論功行賞に感激する加藤少將未亡人田鶴子さん】

旭醫專へ六十萬圓を寄附

夏山東學氏の美擧

半島教育界に擧る朗報―京城長沼町一三實業家夏山東學氏は十五日南大門通五旭醫學專門學校を訪れ同校基本財産として金六十萬円をぽんと投げ出した

同校は先ほど米系から完全に脱却、日本精神に基く皇國臣民教育機關として再出發して間もない直後のこと寄附に公山校長以下職員たちの喜びは非常なものだ、それによつてますます日本醫學者の錬成機關としての使命に向つて大いに邁進出來ると意氣込んでゐる

破格の恩賞に感泣

故鈴木中佐の嚴父談

【仙台電話】功三旭四の優賞に輝く鈴木三守中佐は大東亞戰劈頭ハワイ眞珠灣を強襲し敵彈雨飛のなかに目指す敵主力艦に必中の魚雷を放ちそのまゝ敵艦に體當りして壯烈無比な自爆を遂げ二階級特進の榮譽を擔つたが、いまゝた破格の恩賞に浴したものである、宮城縣登米郡石森町大字新町にさゝやかな左官屋を營む實家には嚴父鶯太郎さん(六三)母堂つやさん(五六)と末妹榮子さん(一七)が輝く忠勳の家を守り次妹勝子さん(二三)は今春來雄々しく仙台陸軍病院に白衣の天使として御奉公に勵んでゐる、嚴父鶯太郎夫妻は

支那事變五周年の記念日に當り破格の進級の恩命に浴しいまゝた特旨優賞の洪恩を忝くしまして私ども一家はたゞ〳〵感激するばかりです、英靈も今日の恩賞にどんなに喜んでゐるか知れません

と語つた

グリム、セレベス向電報取扱ひ開始

朝鮮遞信局では十五日から〝グリム〟及び〝セレベス〟間の電報取扱ひを初めて開始、從來取扱はれてゐた〝ジヤワ〟〝マレー〟〝スマトラ〟〝フイリツピン〟諸島〟との電報開通と相俟つて還し

料金は〝グリム〟のもの＝和文私報十五字迄四十五錢、以上五字増す毎に七錢、歐文私報五語迄五十錢、以上一語増す毎に七錢〝セレベス〟宛のもの＝和文私報五字迄二円四十錢、以上五字迄毎に八十錢

なほ〝セレベス〟における取扱地は當分〝メナド〟に限られ、用語は和、歐文共日本語の普通語に限定、私報の特殊取扱ひをなさない點は一般南方宛のものと同樣

感激に溢れる面持

靖國の杜を去りやらぬ遺族

臨時大祭　第一夜の光榮

【東京電話】あかあかと篝火が照り輝く中を盡きせぬ感激を心に秘め夜をこめて皇國の赤子は引きもやらず靖國の神域を包んで行く、新たに祀られた忠魂一萬五千廿一柱いまぞわが父が、わが夫、わが子は永へに靖國の杜に鎭つてゐるのだ、參拜者のどの顔も感激にあふれ日本人として生れた誇りをしみじみと感じながら、しづしづと玉砂利を踏んでつきせぬ祈りを社前に捧げてゐる

黒紋付に威儀を正して社頭に跪く老人あり、幼き手を母にとられながらよちよちと歩く可愛い姿あり、喇叭隊を先頭にやがて自らも征く決意を緊張した面に示して勇ましく行進する學生の團體もある

次から次へ參拜者の群は滔然として流れて行く、折から忠魂に捧げる花火がぱんぱんと美しい礫石を夜空にまき散らす、今宵もまた宿舎から尋ねて來たのであらう白い遺族徽章を胸につけた遺族達が立去り難げに篝火に照らされながら感激に滿ち溢れた面持でいつまでも佇んでゐる

今はなき戰友の英靈に感激の對面を交はす白衣の勇士、その白衣に敬虔に頭を下げてゆく參拜者、あゝこのやうな美しい清淨な光景が世界どこの國にみられやうか、かくて大祭感激の第一夜は神々しく更けて行つた

總督、儒林關係者を招待

十五日朝京城明倫町經學院における秋の釋奠祭にひきつゞいて小磯總督は朴澤大提學以下七十餘名の儒林關係者を景武台の官邸に招待お茶の會を開いて懇談、東洋の儒道に生きる儒生の勞を犒つた

九軍神に重なる榮譽

開戰劈頭水潜る鐵鯨を驅つて眞珠灣の軍港を強襲、輝く勳しとともに護國の櫻花と散つた特別攻擊隊九勇士はさきに二階級の榮に浴し讃れの九軍神として一億國民敬慕の的となつたが、今回の大東亞戰爭初の論功行賞に當り特旨をもつて過日改正された金鵄勳章叙賜條例の最初の適用をうけ、岩佐中佐以下九勇士ともに優賞されるの破格の恩命に浴し　勇士の靈はもとより　譽れの遺族たちも唯々無邊なる聖慮の有難さに感泣したのである

一門の光榮

故岩佐中佐の嚴父語る

【前橋電話】岩佐中佐の輝く恩賞は『特旨優賞功三、旭四』と發表された、前橋市の自宅にこの榮譽をもたらせば[illegible]は『一寸お待ち下さい』と家人に紋附を出させ威儀を正して感泣しながら語る

特別の思召に預るなど眞に有難いことです、地下の直治も聖恩に感泣してをることゝ存じます全く一家の榮譽これに過ぎるものはありません

と宮城の方に向つて合掌したのち

世に出る李朝秘史

民衆生活の萬華鏡

一學徒の勞作完成へ

秘められた李朝五百年の社會經濟史實が一學徒の勞作によつて近く世に出て朝鮮社會經濟史に最初の貴重な一頁をなさうとしてゐる―城大法文學部四方博教授は學術振興會の援助金を得て十四年度から『朝鮮民政史』の研究をつゞけてゐたが、この程一年餘の努力が實を結び〝民戸篇〟の一册となつて世に出るもので初めて脚光をあびせるものといへる

由來朝鮮の社會經濟史は太平の夢永き李朝時代に關してさへ纏つたものは一册もなく、たゞあるものは個々の史料が塵に埋れ、役所の陣底深く藏されて新進研究家の蹶起するところであつたため、同教授の研究は朝鮮民族生活史に最初の星を戴いて野に出、夜露に濡れて鍬を肩に家路につく朝鮮農家の奴女のことや儒教主義を奉じて五家一統となす隣組制度が三百數十年の昔に既にあつたことなど李朝後期の生活側面を主として各方面から資料を蒐集これを第一部戸口、第二部奴女、第三部鄕約、第四部契の四項目に分つて分類、補訂解說をし現代に永き光芒をひく李朝後期の生活を剔抉したいはゞ朝鮮民族生活の萬華鏡である、なほ同書は同學部内藤教授との共同研究〝朝鮮民政史〟の一部で、内藤教授の牧民篇は昨年すでに出版された【寫眞＝四方教授】

身に餘る恩命

故廣尾大尉嚴父談

【福岡電話】七生報國の一語を殘して眞珠灣の華と散つた特別攻擊隊廣尾彰大尉(佐賀縣三養基郡旭村大字江島二七六)に功三旭五といふ破格の御沙汰があつた　遺勳千古に香る葉隱精神の權化『軍神廣尾』の名は銃後一億の胸にまた新な讃仰の念をわき立たせた廣尾大尉の故鄕旭村の隣村北茂安國民學校に奉職する嚴父練吉さん(五一)を學校に訪ねると『彰にそんな御沙汰がありましたか』と感極まつて暫く言葉もなかつた、早くもこれを傳へ聞いた同校教職員兒童たちによつて、職員室に校庭に萬歳の聲が爆發した、練吉さんは『地下にある、彰はなほのこと影の父として重ね〴〵身に餘る恩命に浴し皇恩の有難さにたゞたゞ感泣するのみです』と唱々と語る、長兄寬氏(二八)次兄寬次氏(二六)―北支出征中―令弟昭行君(一七)は何れも不在で母かつさん(四八)一人が留守居してゐる練吉さんから、感激の話しをきくや長年手鹽にかけた、愛息の重なる光榮にその慈眼は喜びと感激に輝いてゐた

『他の方々はどうで御座いましたか』と故中佐の戰友の上に思ひを馳せるなど軍神の父らしい思ひやりである、彰らの母堂てるさんも

『誠に有難いことで何んと申し上げてよろしいか胸につまつて言葉も御座いません』と老の眼に涙して語つた

末代までの名譽

故横山少佐の母堂談

【鹿兒島電話】功三旭五(特旨)に輝く横山正治少佐の實家鹿兒島市下新田町を訪ねると母堂たか子さん(六五)は秋風に燈下ゆらぐ靈前に膝を進め感涙にむせびつゝ

身に餘る恩命に浴し一家、一門末代までの名譽でこんな嬉しいことはありませんあの子の幼い時、サイダー壜の口金で玩具の勳章をこしらへ兵隊ごつこに夢中になつてゐたころが眼に浮んできます

と止めどもなく頰をぬらしてわが子の勳しを偲んでゐた

忝けないこと

感泣する片山家

【岡山電話】この度特旨をもつて功四旭六の譽れの恩賞に輝いた故片山義雄兵曹長の生家岡山縣赤磐郡五城村字矢知を訪れると軍神の父久米吉翁(七二)母蝶さん(六三)が質素な野良着姿で農耕に餘念がない、恩賞の報を齎すと『まあ義雄がそんな有難い恩賞を……』と言ひつゝさつそく家にかけ込むなり佛壇の扉を開いて拜む軍神の父と母だ

『さきほどは軍神といふありがたい御沙汰を賜つて私どもありがたく〳〵この氣持をどう話してよいか判りませぬので、たゞ〳〵日夜義雄の靈を拜むばかりでしたが、今度はまた有難き敍勳の御沙汰を頂きましてなんといつて感謝の言葉を現はしていゝやら判りません、本當に皇恩の忝けなさに泣けて仕方がありません』

と久米吉翁夫妻は感激して語つた

勿體ない限り

故佐々木少尉の令姉談

輝く功四旭六を賜つたがこの喜びで

【濱田電話】昨年十二月八日あの歷史的なハワイ攻擊の華と散つた島根縣那賀郡國分村出身故佐々木直吉特務少尉は特旨功四旭六の恩命に浴したが、同村佐々木直春氏に嫁いでゐる同少尉の實姉さとよさん(三八)を訪へば喜びの色を双頰に輝かせて語る

私達は家庭的に薄倖で身内といつてもいまは滿鐵安東驛東驛の助役を勤めてゐる長兄熊一(四四)と滿洲牡丹江で警官を勤めてゐる次兄喜代一(三四)の四人兄弟の末つ子であれが生れて四日目に母(なかさん)に死なれつゞいて七歲のとき父(清一氏)に死別してからはほとんど一切私が親代りとなつて育てゝ來たのです、生來無口でおとなしい子で、事に當つては惱むことを知らぬ子でした、あのおとなしい子があのやうな手柄を樹てようとは夢にも思つてゐませんでした、先に聯合艦隊司令長官閣下から感狀を頂き軍神として取扱つて頂きましたうへ重ねてこの度の恩賞はこのうへもない勿體ないことです

感激に胸一杯

故上田兵曹長の母堂語る

【廣島電話】軍神上田定兵曹長に

『こんな有難い御沙汰を拜してはたゞ勿體ないと申し上げるより言葉がございません、定が戰死して以來皆さまからも大變よくして頂き胸が一杯です』と感無量の様子であつた

早速墓前に報告

故横山少尉の嚴父談

【鳥取電話】今回功四旭六の恩命に輝く横山薫範特務少尉(鳥取縣東伯郡古布庄村字法萬)の實家を訪れると嚴父部藏翁(六四)母堂はなさん(六〇)實兄鶴美氏(三四)兄嫁きぬ子さん(三一)祖父玉吉翁(八六)祖母いとさん(八二)など家族の人達は皇恩の有難さに感泣して言葉も出ない有様であつた、嚴父部藏さんは語る

皇恩の有難さにたゞ恐懼感激言葉もありません、思へば今春四月破格の海軍葬に列せられ今またこの恩命を拜しまして定めし地下の英靈も皇恩の忝けなさに泣いてゐるとでせう、死んでも死なない魂は必ず七度生れきてこの皇恩に報い奉ることと確信してゐます、軍人として千載一遇の時に幸ひにして死場所を得たに過ぎない倅にとつてこの有難き思召しは勿體ない限りです　早速氏神樣と墓前に報告祭を行ひます　私達遺族としてはいよいよしつかり、と力一杯働かなければならないと思ひます

黄州天王里附近の拂曉戰

(田中特派員撮影＝京城師團報道部現地検閲濟)

精鋭の激闘最高潮

壯絶！曉の白兵戰

北軍後退、南軍急追へ

【黄州にて藤本特派員發】〝タツタツ〟曉闇を衝いて小銃の音がしつとりと濡れた林檎畑から聞こえて來る、刈入後の稻田に壕を掘つて警戒の目を光らせてゐる歩哨の顔が闇の中に緊張し、〝ダダダダツ〟機銃は火を吐く露營の夢を破る京城師團秋季演習の拂曉戰は開始されたのだ、十四日夜敵將北方東天里附近に後退し興義洞に右翼を東新洞に左翼を張り陣地を布いてゐる南軍酒葉支隊に對し前夜來の夜襲に續いて北軍管支隊は十五日午前三時行動を起し拂曉に至り新洞から東天里方向に攻擊の重點を置き新洞東端から南陽南方の線に一部は上衣櫃洞東側に約五百メートルの幅に展開、拂曉戰の火蓋を切つたのだ、寂として聲なき闇の中にどこからともなく軍馬の嘶きがきこえ、畑の彼方、丘の北方からパツと銃の火が燃え、赤吊星の信號が山の北方に上り無氣味な曉闇である、午前六時野砲が唸り始めた、東の空が漸く白み人の姿がかすかに見え始めた午前七時頃北軍の第一線步兵部隊は砲兵の支援射擊の下に攻擊前進を開始、林檎畑から、高粱畑から、稻田の彼方から敵の兵が續々と這ひ出し機銃は愈よ熾烈に火を吐き野砲は唸り攻防戰は夜明けと共に激闘となつた發煙筒の白い煙があがつたと思ふ間もなく白刃を閃めかし銃劍を握りしめ〝ウオーツウオーツ〟と兩軍步兵の壯烈果敢な突擊となり白兵戰を遂に展開、同七時二十分吊星信號が上り休戰喇叭が山野に谺し拂曉戰を終つた

訪滿機大阪着

【大阪電話】訪滿の使命を無事果し十七日午前九時四十分福岡雁ノ巢を飛立つた學生機は同日午後一時編隊も鮮かに大阪第二飛行場に着陸した、同夜は大阪一泊、明朝午前十時半東京に向ふ

米の拔取り

京城西大門警察署經濟係で目下府内阿峴町四九二精米所雇人大宮本德武(二〇)同孔德町三八元配達夫華山光燦(二〇)を、米穀配給統制令、價格統制令、業務横領罪として身柄を拘束取調中であるが兩名は本年七月廿日から九月廿四日までの間、卅九回に亘り各町會に配達する米の中から三合乃至四合を拔取り、合計三石九斗を不正荷拔していたことが發覺したもの

なほ米の配給に當つては、この種犯罪のほかに最近では消費者が十日分の配給米を通帳制によつて買出に行く場合、買出の日數が後れた時など、その日數を差引いて渡す米屋が相當見受けられるが、この種の行爲は節米を妨げ闇行爲の素因をなすものであるので、これらの業者に對しては當局でも今後容赦なく處分する方針である

京城神社清掃

夜店商人が奉仕

秋祭を前に參拜者が賑ふ京城神社に十五日國民總力鍾路夜市商組合聯盟百六十名が手に〳〵箒を持つて參拜、つゝましくも聖域の清掃奉仕を行つた、平沼組合常務理事に引率された奉仕隊は隊旗を先頭に午前十一時京城神社社前に整列、聖壽萬歳、銃後奉公の誓ひを籠めて參拜の後、十班に分れて境内の清掃作業を開始、それ〴〵定められた場所で草取りに或は掃除に聖なる感謝の作業を奉仕して午後零時過ぎ引上げた

皇恩に感泣

故古野少佐の母堂語る

【門司電話】不滅の滔烈氷へにかをる眞珠灣海軍特別攻擊隊、古野繁實少佐は今次行賞に功三旭五の特旨の恩典に浴したが、この光榮をもたらして福岡縣遠賀郡遠賀村虫生津の英靈ねむる生家を訪へば、嚴父彦市翁は破格の有難き御沙汰に感極まつてか、暫し聲も出ない、心の中で英靈に告げてゐるのか、靜かに瞑目する、木綿の粗末な仕事着姿の實母まきさん(五三)の瞳にも感激の涙がにじんでゐる

二階級進級や海軍葬までして頂いた上に今度も皇恩に浴してたゞ〳〵有難き涙にむせんでをります、繁實も地下で、さぞ同じ思ひをしてゐることでせう、繁實の武勳を汚さぬやう、身を嚴格に持し自分で出來ることなら何んでもして命のある限り御國の御役に立ちたい念願です、十二月八日の記念日には墓碑の除幕をしたいので自分は山本五十六閣下に御願ひする積りです

と醇朴な彦市翁はいずまひを正して語つた、なほ軍神の遺族達は去る八日繁實少佐の辭世の句をとつて『若櫻會』と名づけて遺族會を結成親戚以上の交りをなし協力一致軍神の英靈を恥かしめぬやう誓ひ合つてゐる

增産の鍬で御恩返し

稻垣家の感激

【久居電話】輝く特別攻擊隊勇士稻垣清兵曹長は今回功四旭六の特旨を拜受したが三重縣一志郡川合村の生家を訪へば嚴父清吾氏(五〇)は

『ありがたいと申すよりこの感激を述べることは出來ません、重ね〴〵の光榮に私どもの盡す道は增産の鍬だけだと考へまして今も來年の麥作の準備に田を耕さうと思つてゐたところですがそれではさつそく清の墓にも參つてありがたい聖旨を傳へませう』

と祭壇に威儀を正せば傍らから

『御恩賞を拜しまして清も聖恩のありがたさに泣いて喜んでゐることでせう、皆さまに軍神として尊敬せられるさへ身に過ぎた家門の譽れと喜んでをりましたのに畏いことであります、この御恩報じにはあとの子供を立派に育てあげねばならないと思つてゐます』

と軍神の母あやをさん(四九)はぢつと目をつぶつて合掌するのであつた

夕刊 京城日報
第一種郵便物認可 發行人 編輯人 印刷人 京城府太平通一丁目三十一番地 京城日報社 定價 一部金二錢

鐵道要衝に巨彈の雨
獨、赤軍の退路を斷つ
コーカサス作戰も進捗

スターリングラード市街戰線

【ベルリン特電】(十三日發) スターリングラード北西部市街戰は〃冬將軍〃を前に依然激烈に繼續されつゝあり、ドイツ軍はぢり押しの戰術を續けて十三日ひにボルガ河沿ひのソ聯軍の堅防陣地に嵐の如く砲撃、最後の決戰を展開しつゝある、ソ聯軍は對岸より長距離砲を以て必死の掩護砲撃を續け、ドイツ軍巨砲隊と猛烈な砲撃戰を展開、西岸の自軍陣地を一時間でも長く確保せんと試みてゐる、ドイツ空軍は地上部隊の進撃に協力しつゝ遠くボルガ東岸の兵站線遮斷に大擧出動、各鐵道要衝に巨彈の雨を降らせて撃碎しつゝあり、これがためボルガ河東方鐵道要衝には軍需及び軍需品を滿載せるソ聯の列車が累々として線路上に破壞されて横はつてゐるといはれる

【ベルリン十四日同盟】獨軍筋の情報として十四日傳へられるところによればコーカサス北西部で作戰中の獨軍は重疊たる山岳地帶に網の目の如く張りわたした赤軍陣地を强襲、さらに數ケ所の山頂道路を占據した、すなはち十三日獨軍は有力な空軍の掩護下に赤軍主力防禦線に突入、赤軍數ケ部隊を殲滅し主力補給線を寸斷潰走する赤軍を急追して盛大な損害を與へた、他方赤軍はツアプセ港に對する獨軍の重壓を牽制せんと企圖し數回にわたり反撃を加へ來つたが獨軍はこれを悉く撃退した

冬季戰に怠りなし
近く掉尾の激戰展開か

【リスボン十四日同盟】スターリングラード戰線を含むコーカサスに至る南部戰線一帶はここ數日來大きな戰鬪なくさすがのスターリングラード市街戰もこのところ獨ソ兩軍間の砲撃戰に止まり同市街戰特有の肉彈相搏つ白兵戰もここ數日は小局地戰に極められてゐる模様である、獨ソ戰線の全線にわたり寒氣漸く嚴しく赤軍中にもすでに冬の軍裝で戰鬪に參加してゐるものあり、本格的な冬に入る前觸れとして冷雨が各地前線に降り注ぎ、この結果、非常な泥濘が大作戰行動を妨害してゐる、獨ソ兩軍はこの戰鬪の小康を利用して來るべき冬季戰に備へ、しきりに部隊の整備に懸命の模様だが、ロイター通信モスコー特派員は右につき十四日左の通り報じてゐる

獨ソ南部戰線に於ける現在の小康狀態が果してどの位續くかは豫想困難だが、各方面からの情報によると獨軍司令部は目下しきりに部隊の整備增强を急いでゐる模様だ、これに對し赤軍側はこのあとにくる獨軍の大攻勢に備へて獨軍に休養の期間を與へぬためスターリングラードはじめ各地前線で反撃に出てんとしてゐる模様である、獨ソ兩軍の情勢から見て獨ソ戰がこのまま多期の膠着戰に移行するとは思はれず、本格的な冬が訪れるまでに近く本年掉尾の大激戰が行はれるのは必至と見られる

十四日リスボンに達した各地戰況左の通り

一、連日スターリングラードの戰況を報じてゐたソ聯の戰況公表にも、十四日にはじめて同市の名前が見えず、市街戰の小康狀態に入つてゐることを物語つてゐるが、なほ北西部の工場地帶では局地的ながら依然相當の激戰が行はれてゐる模様である

一、コーカサス戰線では北西部方面で獨軍の進出が報ぜられ、この方面で獨軍はさらに數ケ所で峠路を確保したと傳へられる、ノボロシースク地區戰線にはソ聯黑海艦隊所屬の陸戰隊も參加してゐる

一、レニングラード戰線では冷雨がしきりに降り注ぎまたその北部カレリア地峽には早くも大降雪があり、軍事行動を妨げてゐることが報ぜられる

慌てた英潜水艦
自國俘虜護送の伊船を撃沈

【ローマ十四日同盟】伊軍司令部十四日發表によれば中部地中海航行中の伊輸送船一隻は英潜水艦の魚雷攻撃をうけて沈沒、乘船中の捕虜四百名中百三十九名が溺死した

ルーズベルト大見得
ソ聯、重慶へ機嫌取り

【ストックホルム特電】(十三日發) ルーズベルト大統領の特使ウイルキーは聯合國巡歷の旅より十三日ミネヤポリスに到着十四日ワシントンに歸着の上大統領と會見、聯合國側の諸情勢に關し要旨報告を遂げるはずであるが、さきにモスコーより西亞經由歸國の途にある駐ソ大使スタンドレーがモスコー及び重慶においてアメリカの對ソ、對重慶援助强化促進の必要を强調したことは周知[illegible]スタンドレー大使が歸途テヘランにおいて記者團に對し

クレムリンは今や火のつく如くアメリカの軍事援助を切望してゐる

と言明、暗にソ聯の要望を是認するが如き口吻を洩らしたことから見ても兩者のルーズベルトに對する報告乃至進言は

一、對ソ軍需品輸送の增加促進
二、第二戰線展開の急務

にあることは明かであると見られてゐる、なほワシントン官邊の一部ではソ聯は更に米英ソ聯合軍事最高司令部の設置案を要求しつゝありと傳へてゐる、かゝるソ聯側の要求に對しルーズベルトが如何なる裁斷を下すか注目されてゐるが、ルーズベルトが今回の爐邊談話において『聯合國の戰略決定』を揚言、日獨兩國に對して新なる攻勢に出でソ聯支那兩國の戰線から日獨の戰力を他に振向けさせる方針を發表したことは明かにソ聯及び重慶のかゝる熱望に應へる大見得であると見られてゐる、併しながらタイムス紙ワシントン電は『米英がソ聯と重慶を同時に滿足させることは現實問題として容易なことではない』と論じてゐる

共同作戰を行へ
英紙、チャーチルを戒む

【ストックホルム十四日同盟】ロンドン來電=十二日エジンバラにおけるイギリス首相チャーチルの演説は戰局の前途に光明を與へるものとしてイギリス國民一般に好評ではあるが、右演説を盲目的に支持すべきではないとの意見が相當廣く行はれてゐることは注目に價する、即ち聯合國が作戰の統一制を缺き各國がそれぞれ異つた戰爭目的を有してゐる聯合側の致命的缺陷を熟知する人々はチャーチルが今回の演説で今後戰局の進展につれて最大の障碍ともなるべき右の事實につき何ら言及してゐない點を痛烈に非難してゐる、特にデーリー・テレグラフ紙は十三日の紙上で

チャーチルは戰局に關し景氣のよい報道を國民に與へはしたが一體聯合國はいかにして勝利を得べきかといふことに關し意見の一致を見てゐるか、聯合國の首腦部は戰後の平和維持策につき同一意見を保持してゐるのかさらにまた彼らは勝利への道を歩いてゐるのか、それとも盲目滅法に突進してゐるのか、われわれは聯合國間における共同計畫が全く樹立されてゐないといふ事實を餘りにも多く發見するこの點は重慶でもソ聯でもすでに認められてをり、アメリカ紙もまた『かゝる統一性の缺如は大西洋の彼岸(イギリス)において痛切に感ぜられてゐる』と述べてゐる、チャーチルがわれわれにいかに景氣のよい戰況報道を與へても問題ではない、重要なことはチャーチルは戰爭を短期化するとともに同時に戰爭の招來を意味する共同作戰を行ふことだ

と述べてゐる

伏見宮殿下台臨
海軍潜水學校卒業式

【吳電話】海軍潛水學校では畏き邊りより御差遣の伏見宮博恭王殿下の台臨を仰ぎ十五日同校學生の卒業式を擧行した、この日殿下には午前十時十分吳鎭[illegible]校、海軍大臣代理[illegible]樋口潛水學校長ほか有資格者に謁を賜ひ、ついで式場に成らせられ優等學生御下賜品拜受式に臨ませられた御のち午前十一時五分御發[illegible]

靖國神社臨時大祭陸軍部隊の參拜=(電送)=

千五百四十四萬石
九月廿日現在 第一回鮮米豫想高

昭和十七年米穀年度朝鮮産米の收穫については旱魃に因る旱魃と數回に亘る風水害により相當の減收を豫想せられてゐるが總督府農林局は十五日その第一回收穫豫想高(九月廿日現在)を水、陸稻合計千五百四十四萬五十三石と左の如く發表した

朝鮮總督府農林局(十五日午前十一時發表)本年は苗代期における天候概ね順調なりしため一般に苗立良好なりしも植付期において全般的に降雨過少なりしため植付の適期を失したるもの少からず、爾後依然として降雨に惠まれざりしため植付後の生育著しく阻害せられたるもの或は枯死せるもの等を生ずるに至りしが、更に八月上中旬二回に亘り鮮北部に豪雨ありて相當の被害を蒙りたり、之を要するに八月十五日現在の水稻作況は不良の狀況に在りたり、加ふるに八月下旬に入り南鮮を除き颱風襲來し風水害を受けたる地方あるのみならず多雨寡照にして氣溫も漸降し九月に入りて更に天候は崩れ中旬に至り中南鮮に豪雨を見る等稻作期間中の天候は概して不順に經過せり、之を全般的に觀るに旱魃に因る旱魃と數回に亘る風水害に依り相當の減收を豫想せらるゝ狀況なり、今九月廿日現在第一回豫想收穫高調査の成績を見るに作付反別は水稻百廿萬五千六百九十六町九反歩、陸稻八千七百六十五町四反歩、合計百廿一萬四千四百六十二町三反歩にして豫想收穫高は水稻千五百卅九萬二千七百廿六石、陸稻四萬七千三百廿七石、合計千五百四十四萬五十三石となれり

感激の昇殿參拜
靖國神社臨時大祭第一日

【東京電話】護國の英靈一萬五千二十一柱を新に新祭神として齋き祀つた靖國神社では菊花薰る十五日勅使掌典長田中眞行卿參向、奉幣の儀あり臨時大祭第一日の儀が嚴かに執り行はれた、前夜感激の招魂式に參列した遺族たちはこの朝七時頃から續々と九段に參集、午前八時には陸海軍省係官、鈴木宮司以下本殿に參進着床、御扉を開いて神饌を供す、八時半山田大祭委員長をはじめ陸海軍武官、勅奏任文官ならびに合祀關係部隊代表がそれぞれ軍裝通常服に威儀を正して拜殿に參着、鈴木宮司嚴かに祝詞を奏し奉つた、九時勅使座田掌典御幣を捧じて參向、東條兼陸相、嶋田海相、山田大祭委員長など參列諸員の奉迎裡に本殿に進み御祭文を奏し、玉串奉奠拜禮ののち下向、ついで横須賀海兵團海軍陸戰隊二個大隊の代表參拜あり、莊重な軍樂『水漬く屍』の調べに祭神戰友の英靈永へに安かれと祈れば、つづいて東部軍司令官中村孝太郎大將が幕僚を從へて參拜、代表各部隊はいづれも軍裝いかめしく相ついで社頭に整列、部隊長の『捧げ銃』に一齊にあがつた銃尖が光る、昨夜の感激を忘れかねて日程の順序を靖國の神域に過さんとして集つた遺族たちも、この勇壯な軍國繪卷をまのあたりに見ていまさらの如く新祭神として神鎭つたわが子わが父わが夫を偲へ一門の光榮を身に感ずるのであつた

感激の昇殿參拜はこの日午後一時から三萬遺族のトップをきつて第一班(樺太、北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、東京の一部)の遺族によつてなされた、幻に描き夢に見たこの一瞬である、先頭より順次着座した遺族たちは正面に拜する神鏡を仰いで神々しさに感極つたやうに、しばし佇立してゐるのだ、拜禮を終つた遺族は三々伍々連れだつて宿舍に歸り、昨夕と今日の感激を肉親へ知らせるため筆をとつたが、他の班は午前午後にわたり破格の恩命により拜觀を差許された宮城內御府、新宿御苑に參入、忠靈の遺品を拜し或は菊花爛漫と咲き亂れる中に身の光榮をしみじみと感じたのであつた

小須田中將を起用
初代陸軍兵器行政本部長

【東京電話】兵器の飛躍的向上整備を目的として陸軍では兵器行政の一元的機關として陸軍兵器行政本部を新設することになり、關係勅令を十日附官報で公布、十五日施行されたが、初代陸軍兵器行政本部長には陸軍兵器本部長小須田勝造中將が補せられ關係人事は十五日陸軍省から左の如く發表された

陸軍省發表(十月十五日)
今般左の通り發令せられたり

陸軍兵器本部長陸軍中將 小須田勝造
補陸軍兵器行政本部長

陸軍兵器本部附陸軍中將 鈴木宗作
補陸軍兵器行政本部附

陸軍省兵器局長陸軍中將 菅晴次
補陸軍兵器行政本部總務部長

三中將略歴

小須田勝造中將 長野縣南佐久郡平賀村平賀出身、陸士卒、技術本部員、米國駐在官、陸軍造兵廠長官、兵器本部次長、兵器本部長

鈴木宗作中將 名古屋市東區久屋町出身、陸大卒、軍事研究のためドイツ駐在、元帥副官(上原元帥)軍務局課員、陸大兵學教官、關東軍司令部附、教育總監部課長、昭和十三年中支派遣軍幕僚、支那總軍幕僚

菅晴次中將 東京市牛込區市ケ谷加賀町出身、陸大帝大卒、技術本部員、軍事研究のため英獨兩國駐在、陸軍省銃砲課長、昭和十四年兵器局長

一元的運營に萬全
小須田新部長語る

【東京電話】新任初代陸軍兵器行政本部長小須田勝造中將は十五日午後一時陸軍省記者會において左の如く抱負を語つた

陸軍兵器行政本部の新設に當りはからずも初代本部長たるの大命を拜し光榮に感激するとともに責任の重大なるを痛感する次第である、今回新設せられた陸軍兵器行政本部は兵器の重要性にかんがみ大臣の補佐官、すなはち陸軍省局長の地位を負行部隊長すなはち兵器の研究、生産補給機關の長官の地位とを兵器行政本部長一人に兼ね備へしめて兵器行政の企畫と實行とを協力、一元的に遂行する用意としたものであある、從つて陸軍における唯一の兵器行政本部は陸軍における兵器關係の唯一最高の機關であり、關係事務の民間との接觸はここで一本建で取扱ふことになつたわけである、今や大東亞戰爭は長期持久の様相を呈しつつ國家總力をあげての建設戰闘に突入せんとしてゐる、敵米國は世界に冠たる物資を恃んで厖大なる生産力に物をいはせて一擧にわれを消滅せんことを企圖して居り、その實績は必らずしも示威誇張とのみ輕視し得ざるものがある、これに勝抜くためには精神力その他の要素とともに敵の物的戰力に對して勝ちを制する必須の要件としこれを端的にいへば困難なる狀況下において不退轉の決意をもつて技術の飛躍的刷新と生産力の劃期的向上とを實現して一よく十に當る兵器の生産および補給に遺憾なからしむるを要する

この事たるや物的戰力の特質にかんがみ眞に軍官民の總力を動員してはじめてその實現を期し得るのである、ここに從來とも研究に、生産に、官民の寄せられた多大の援助、協力に對し深甚の感謝を捧げるとともにさらに積極潑剌たる官民の協力援助を希望してやまない

"老齡、その任に非ず"
在濠米空軍司令官以下更迭

【ブエノスアイレス十四日同盟】ワシントン來電によれば米陸軍省は九月下旬マッカーサー麾下の在濠洲陸空軍司令官ブレット中將を更迭し、その後任にケニイ少將を任命しさらに高級指揮官の大異動を斷行した、更迭の理由はブレット中將およびその部下空軍將校が老齡で積極性を缺き對日航空作戰にしばしば失敗したのに起因すると見られる【寫眞=ブレット中將】

共同宣言具體化へ
興亞團體會合 第三日の議題

【東京電話】日滿華興亞團體會合第三日は十五日午前九時二十五分大東亞會館に開催まづ護國の英靈に對する感謝祈念を行つたが、續いて懇談に入るに先立ち滿洲協和會代表張燠相氏より皇軍に對する感謝決議の緊急動議が提出され、案文作成を日本側に一任することゝして日程に入つた、會議は各團體の現狀説明にはじまり興同企畫局長尾崎敬義、協和會張燠相、東亞聯盟林柏生、新民會周敦信、蒙古興亞協力會陳玉銘の諸氏よりそれぞれ所屬團體の概況を説明、ついで本會合の總議第二目標なる興亞運動徹底化に對する組織の研究を議題として懇談を續行、提案者側として興同山離理事長が提案理由を説明、これに對し各代表および興同常務理事入江種矩氏より

『第二日の懇談において日滿華三國共同宣言具體化のための運動方策五項目が決定したのであるからついで興亞運動徹底化に關する組織の研究が不可缺となるのは當然である、今日の懇談事は理論ではなく實踐である、聯盟組織は理想的に構成せられることが必要ではあるが、まづ第一着手として連絡員を設置すべきである』

と賛成意見を開陳、採決に入り全員起立、林副長の統裁により採擇を決定、ついで日滿華興亞團體會合委員長田邊蘭次少將より興亞大業完遂案を提出滿場一致これを決定、なほ協和會代表張燠相氏より緊急動議として提案、審議中であつた皇軍感謝決議案の發表文を決定、興亞團體萬歲を三唱して正午散會した

次官會議取止め

【東京電話】靖國神社秋の臨時大祭により十六日の定例閣議は十五日に繰上げとなつたが、これに伴ひ十五日の定例次官會議は取止めとなつた

小倉侍從扶餘へ

【大田電話】鍊後國民總努力の狀況を視察のため來道中の小倉侍從は十四日午後二時大田を出發、扶餘へ向つたが途中儒城溫泉及び儒城農民道場を視察午後四時五時卅分から宿舍に民間各層代表の小林、吉原、沈、松本四氏を特に引見地方の事情を懇ろに聽取した、かくて十五日午前九時扶餘へ向つた

國府法制局長に胡蘭成氏

【南京十四日同盟】國民政府では十四日附をもつて上海國民新聞社長胡蘭成氏を行政院法制局長に任命した

同氏は國府還都當時宣傳部政務次長として活躍したが昨年末辭任、上海にあつて新聞事業に專念してゐたが今回再び起用されたものである

總督府辭令

(十四日附)

專賣局技師橋本廣任本府技師(二等)命農林局勤務▲鐵道局書記松澤秀雄任鐵道局副參事(七等)▲營林署技師早瀨利康陞敍高等官三等▲稅關鑑視官木戶鹿之助陞敍高等官六等▲鐵道局副參事石井義右衛門依願免本官▲本府事務官角永清朝鮮臨時電力調査會委員被仰付▲同西田豊彥朝鮮臨時電力調査會委員被免

消息

◇前田房之助氏(代議士)十五日入城朝鮮ホテル
◇一宮房治郎氏(同)同上
◇齋藤鶴雄氏(京城齒科醫師會々長)新任挨拶のため十四日本社來訪
◇瓜田杏四郎氏(同副會長)同上
◇鄭保縉氏(同)同上
◇木村義雄氏(朝鮮石油社長)十五日〃あかつき〃で入城
◇兒島喜久雄氏(東大教授)同上
◇木村澄衛氏(京大教授)同上
◇竹中新太郎氏(竹中組京城支店長)十六日午前七時三十五分歸城
◇李鍵九男(李王職長官)參拜ならびに事務打合せのため十七日京城發〃あかつき〃にて東上

時の錄音

日獨兩軍の勢力を他の戰線に分散させると例の爐邊談話。
×
第二戰線形成を示唆する如く意味せざる如く。
×
ルーズベルトの意思は依然として曖昧模糊たるものあり。
×
いづれソ聯への賄賂にせつば詰つた彼一流の出鱈目だ。
×
醫療關係者徵用令實施。光榮ある聽診器の應召だ。
×
かくて、戰時國民保健への萬全の構へ成る。
×
けふから始まる寄留屆の義務斷じて怠つてはならぬ。
×
所在も明かでない奴に日本國民はゐないはずだ。

火と燃ゆ貯蓄進軍

昨年の二倍、二億圓を突破

大東亞戰に勝ち拔くための半島貯蓄戰は火と燃ゆる赤誠を際つて熱烈な街戰をつゞけてゐるが、總督府財務局に集つたこれが八月末現在までの全鮮貯蓄成績は今年の目標額九億の一般個人有價證券投資額(二億)をのぞいた七億のうち二億五千六百四萬一千円に達しつけた、これは昨年の同期一億二千八百七萬円に比べると實に一億二千七百九十七萬一千円の飛躍的增加を示してゐるが

その中でも京城の九月末現在は今年の割當額二億一千六百六十萬円に對し、一億一千四百八十萬三千円、五三パーセントを示し、上半期ですでに目標額の五割以上を突破

これまで振はなかつた京城の貯蓄界名を一氣に試び構ひ、愛國の至情を吐露するに至つた

第五回戰時債券發賣

【東京電話】前線の勇士に負けるな銃後の心意氣——回を重ねる毎に非常な賣行を見せてゐる戰時債券が十五日から十一月十日まで第五回の賣出しが行はれる

貯蓄債券は六千五百萬円、報國債券は三千五百萬円、合計一億円で貯蓄債券は二十円券と十円券と五円券の三種報國債券は十円券と五円券の二種計五種抽籤は明年二月第一回が行はれ以後貯蓄債券は二月、八月の年二回報國債券は年一回二月に行はれる、なほ割增金は前回同樣である

新嘗祭供御用米

嚴肅けふ總督府で檢分式擧行

本年朝鮮から獻納すべき新嘗祭供御用米及び粟の檢分式は十五日午前九時半から總督府第一會議室に擧行し、選ばれた米の全南順天邑楮田里六不滕熊郎氏(四)夫妻、粟の平南江西郡江西面德興里三六〇松宮晋洙氏(五)平北義州郡義州邑東部洞一〇〇平山鄕久氏(四)の謹作者はこの朝フロツク・コートに光榮の顏を輝かせて登廳、式は小磯總督、田中政務總監、山澤農林局長外農林關係者によつて開かれまづ不滕氏が謹作者を代表して檢分を乞ふの詞を述ぶれば、小磯總督謹耕の新穀を檢分、さらにその勞を犒ふ挨拶があつて記念撮影ののち閉式、かくて光榮の三氏は十六日午後一時五分京城驛發列車で東上、廿日宮内省を通じて獻納の手續をとることゝなつた

神宮で遙拜式

靖國神社臨時大祭當日に執行

靖國神社臨時大祭當日十六日午前十時から朝鮮神宮奉贊殿南庭に於て諸官廳、愛國班、銀行、會社、學校方面諸團體數千名參列、遙拜式が嚴かに執行される

神かけて誓ふ精進

明治神宮錬成大會 半島代表軍が申合せ

第十三回明治神宮國民錬成大會は内外地はもちろん東亞共榮圏に活躍する二萬五千の若人を集めて大東亞戰下初の意義も深く來る廿九日から十一月三日までにかけて明治神宮外苑の聖域に開催、赫々たる戰勝にあがる興亞日本の若き力を中外に昂揚することゝなり、半島でも擧兵への意欲火と燃える四百名の大部隊を編成晴れの大會に参つて大いに士氣を鼓舞させることとなつたが、いよく廿四日夜の半島代表團京城出發を前に總督府では十五日午後二時から京城明治町朝鮮體育振興會集會所に 大會參加役員會を開いて 明治天皇の御聖徳を偲んで、皇國臣民として平素鍛へた心身の成果を明治神宮大前に奉納する大會參加の氣構へを特に強調、これが萬全を期した朝鮮は昨秋この大會に參加したとき一般部蹴球で極めて面白からぬ態度があり、その影響は朝鮮代表團全體ひいては半島の面目にかゝはるやうなものがあつたので、總督府厚生局および朝鮮體育振興會では來るべき大會こそは、榮えある大東亞共榮圏の指導者たる半島青年の眞の面目を誇示して過去の汚名を拂拭させる機會として、まづ朝鮮語を絕對使はないことなどを先決條件に左の實踐事項を同會議に指示、大會參加の有終の美に備へたものでこれは戰時下半島體育界の行くべき道を明示するものとして注目を惹いてゐるなほ團長以下代表團全役員選士は出發に先立つて廿四日午前十時から朝鮮神宮大前に結團式を擧行聖戰下〃體力奉公〃を神前に誓ひあげる

△團員注意事項 ◇參加團員の覺悟 國民錬成を目的とし團體を以て參加すべきものに付終始團體行動をとり國民錬成の趣旨の反するが如き行爲の絕對になきを誓ふの覺悟を要す◇行動選士は團長以下役員の指揮命令に從ひ規律を嚴守し殊に團體行動には時間を勵行し勝手なる行動を爲さざること◇選士は試合終了後と雖も斷じて應援者の前等に挨拶の爲め出るが如き事を爲さざること ◇役員及選士は朝鮮語を使用せざると◇選士は競技に關しては絕對に聲援を爲さざると◇宿泊は在京知人等の關係ありと雖も指定の宿舍以外に宿泊を禁じ宿泊上に遺憾を感ずる點ありと雖も國民錬成の趣旨に依り絕對に不平を申立でざると◇宿舍に於ても國民儀禮を行ふこと◇選士は自己の試合終了後と雖も静粛を旨とし絕對に喧騷に亘らざること◇團員の服裝制服ある者は制服、その他は絕對に國民服着用のこと

△統制を紊したる場合の處置 朝鮮代表たる名譽を汚し又は團體行動を紊るが如き行爲ある場合團長は選士團より除名參加取消處置をなすものとす

新祭神遺族顯忠府新宿御苑拜觀

【東京電話】畏き邊では靖國神社臨時大祭に參列の新祭神遺族に對し宮中顯忠府ならびに新宿御苑の拜觀を差許される旨御沙汰あらせられまづ大祭第一日の十九日は午前九時から午後四時まで遺族千二百餘名が宮中に参入、滿洲事變、支那事變、上海事變、大東亞戰爭の殉國者の忠烈を記念せられる顯忠府を拜觀また新宿御苑には同九時から四時まで遺族六千四百名が拜觀を差許され御紋菓を下賜せられたが一同は御殊遇に恐懼感激してそれ〴〵退出した、引つゞき二十日まで參列遺族の拜觀が差許される

歩く新秩序

一列勵行漸く本格化

足の訓練 第四日

一列勵行は待つ間がいやだ、人に顏を見られては恥かしい……といつたまだ自由思想時代のお洒落氣分で一時は京城府民に不人氣だつた京電の一列勵行も、黃金町六丁目の朝の雜沓、鍾路四丁目の夕の混雜、三越前からお買物歸りの混亂を思へば嫌々ながらもこの列に加はらなければ電車に乘れない、といつたどうにもならない事實は遂に府民の方が協力の態度を示してこの頃ではいづこの乘場に行つても客の多い停留所は立派な一列の勵行だ、買物行列とは異つて進むためのこの秩序整美は次第に銃後の國民意識に合致して一つの充實した生活の發見だ、最初のうちに遠慮勝にやつた京電當事者もこの頃では全く自信を得たが殊に十二日からの交通訓練には一段と研究の結果を各方面に應用して〃先の爲は先に〃といふ極めて割り切つた道德心をそのまゝ府民に求めて成績をあげてゐる、これについて京電當局では次のやうに擴貸を語つた【寫眞=電車の一列勵行】

このことの實施當時はお客と乘務員監督の間には幾度もいざこざがあつてその度毎に府民からお叱りを被るといつたことがありましたがこの頃では全く協力して下さるので嬉しいのです この度の交通訓練では特に一列勵行の合理化を圖つて、黃金六丁目、東大門、西大門、鮮銀前等では特に狀況に應じた構へをとらせましたので成績は良かつたやうです、一列勵行の目的は混雜を防ぐことが第一目的ですがこれには別段法的根據があつての實施ではありませんがこれが實踐も道義朝鮮の確立の一證左だと喜んでをります、最近では自動車、牛馬車までがこれを理解して人道から車道へそれから電車へ乘りこむ一列行進が續く間は心よく停止してくれてゐます

時計の修理は村木へ

國語のお手本

四色刷り讀本出來上る

一日も早く國語を習はう——と國語全解の愛國班講習會や一日一語運動が全鮮を蔽つて力強く展開されてゐるに對し國民總力聯盟ではその熾烈な皇民化意識に應へるため、かねてから手輕な日常會話の小冊子を作製中であつたが、このほど材料を克服して四百萬部を印刷、全鮮愛國班に配布することゝなつた

配布される小冊子は、四色刷りの判り易い繪入り小讀本で『ジョーカイ』『ヒノマルノハタ』など常會用語をはじめ『ダイトーアセンソー』『グンカン』『ヘイタイサンアリガトー』など戰爭のことや『クーシユーケーホー』『テツキライシユー』『シヨーイダン』など防空、家庭禮法、日用品など銃後生活に必須な日常語が約二百繪入りで書かれてあり、全鮮の愛國班に必ず一冊を備へて常習させ國民學校の卒業生なら誰でも先生になれる仕組みとなつてゐる【寫眞=出來上つた繪入り讀本】

けふから寄留屆

府の親心相談所設置

『寄留屆を怠るまい』と半島二十四百萬總起ちの秋、大東亞戰爭を勝抜くためには人口の動態把握に完璧が期せられなければならないと、けふ十五日から寄留屆が始まつた京城府では繁雜を省き一人も洩れなく屆出の完全を期するため府内百三十九町聯盟愛國班を通じて十五日から取纏めが行ひ二十四日までに府戶籍課の窓口に必ず持着するやう萬端の準備が整へられてゐる、本籍の無い者、本籍の判らない者等不幸な人々が若し屆出に迷つたならとの温い親心から府戶籍課では屆出の始まつた十五日から『寄留屆相談所』を開設法令に暗い人々に親切な相談相手となつてゐるが開所匆々相談客で賑つた【寫眞=京城府廳の寄留屆相談所】

輸出工藝品展

入選入賞者決定

目下南大門通り商工獎勵館で開催中の朝鮮輸出工藝品展の入選品に入賞者は審査總長上瀧殖産局長、審査委員長小山中央試驗所長以下各審査委員が嚴重審査の結果左の如く決定十五日午前十時より銀行集會所において授賞授與式を擧行、上瀧殖産局長より各入賞者に對しそれぞれ賞金と賞狀を授與した(括弧内は出品物)

▲出品總點數二五二八點中入選一七二點、入賞四八點▲最優良賞一名賞金五百円京城瀨尾孝正氏(手提箱)▲技術賞二名鮮銀總裁賞平壤松井民治郎氏(香盆)京城梅原久幹氏(平安朝模樣緞通)▲優良賞十名賞金百円▲佳良賞十五名賞金五十円▲褒狀廿名

釋奠祭

經學院で擧行

東洋の儒聖孔子を祀る京城經學院の秋の釋奠祭は十五日午前十時から明倫町同院で擧行された、小磯總督、田中政務總監、李垠九李王職長官、篠田聯盟事務局總長、朝鮮軍司令部淸水參謀、海軍武官府松本大佐、眞崎本府學務局長、桂社會教育課長をはじめ林中華民國總領事、民間側から韓相龍、尹致昊李軫鎬氏等官民多數列席の下に朴澤大提學執祭で莊嚴なる雅樂奏樂裡に式典を開始、祭官にはじまり初獻、飲福、祭告があつて小磯總督以下高官の添香(焚香)に次いで各團體代表の添香があり、撤籩豆の儀があつて燎燎、同十一時半式典を閉ぢた【寫眞=釋奠祭】

笑わし隊戰線慰問の途へ

酷暑極寒と戰ひつゝ大陸の戰野に奮戰する我皇軍の勞苦を偲び軍人援護會朝鮮本部が北支の戰野に派遣する皇軍演藝慰問團の一行十名は同本部梶邊主事に引率され十五日午前十時本社を訪問、出發の挨拶の後同午後三時三十分京城發列車大陸で一路慰問の途についた、一行は十七日北京着軍關係に挨拶の後北支山西方面の勇士を約五十日間に亘つて慰問、舞踊に漫才に浪曲に二千四百萬半島民衆の眞心を盛つた心盡しを披露、來る十二月三十日歸城の豫定

訪滿機大阪へ

【福岡電話】昨夜福岡に一泊した訪滿學生機は朝霧を運ね十五日午前九時五十分一齊に福岡雁巣空港を出發一路大阪に向つた

森田編修官嚴父

總督府編修官森田梧郎氏嚴父由次郎翁は十五日午前三時新潟縣北蒲原郡乙村字大出の自宅において永眠した、享年七十四

株式

雜株高に追隨

前場 休日續き勞々刺戟材料薄のため引締いて氣乘薄く短期主力新東を筆頭に閑散保合ひを示した、即ち朝新廿八円十錢、新東百廿九円四十錢とそれ〴〵變らず、新鐘九十五円八十錢、高周波四十九円と一、二十錢方の高低區々に寄付き、あと變化に乏しかつた

後場 (急騰)環境は極めて良好ながら買氣振はず短期新東百二十九円揚みに保合ひ、その他も概ね變らずであつた

實物取引

買氣益々沸騰

時局產業株の將來性が認識されて買氣はますく沸騰した、時に鮮内株に對する買氣が猛烈を極め龍山工作新、小林鑛業、朝鮮水力、朝鮮理研金屬など新高値に躍進、空賣筋の買埋めが目立つた、その主なる出來値左の如し

朝鮮水力八七、二——八、五▲同新三八、三——八▲龍工新三五、五——七、五▲小林六五、三——五、五▲窒素七五、五▲同新四四、〇——五▲函館ドツク九九、三——一〇〇、〇▲日本鋼工九二、六——五▲神戶鋼新四五、五▲自動車部品七八、五▲同新三九、〇——九、六▲ヂーゼル自工新七九、三

東京國債實物(單位錢)

甲號五分一〇八、一〇 廿三年物 九六、五〇 一回四分一〇三、四〇 廿八年物 九六、五〇 二回四分一〇三、四〇 佛貨四分 一六〇、五〇

現株仲値 (十五日)

京日特選高段者勝拔戰

第五回(局は前局2三金迄)

五段 △市川一郎
五段 ▲加藤慶次郎

持時間 各六時間
消費時間 (△四八分 ▲一・三七)

▲6八銀 △3二玉 ▲7七銀 △6一飛 ▲3八飛 23 △3三桂 ▲4八角 △7三角 ▲5七角

木村名人講評 先手三八飛は予想外…四七金、四八角、七三角五七角と指したい。これなら三七桂とも三八飛とも自由である。後手三三桂は反撃の氣勢を示してよく、次で七三角も二筋に飛の轉換を計つて有力な手段である。

新刊紹介

▲作戰一萬浬(平出英夫著)米英蘭艦隊擊滅の經緯、今次作戰が想像の域を越す一萬浬といふ空間的驚異のみを述べて居るのではない各部分の深みに我等の關心を傾注せしめる(八〇錢、東京麴町内幸町二丁目二ノ四、興亞日本社)
▲國體信仰道解義(鄭然圭著、一円・東京・中野・小瀧町四六・皇學會)

三國志 (932)

七軍魚鼈となる(一)

吉川英治(作)
矢野橋村(繪)

容子なので、一時は抑れてゐた關平も、
『もう心配はない。この上は一轉して、攻勢に出で魏の慢心を挫ぎわが實力の程を見せてくれねばならん』
と、雌伏の人々と額をあつめて作戰を練つてゐた。
ところが、魏軍はにはかに陣容を更へて、樊城の北方十里へ移つたといふ報告に、
『さては早くも、蜀の攻勢を怖れて、布陣を更へたとみえる』
と、輕忽を戒め合つて、すぐその由を關羽に告げた。
『どう陣立を變へたか?——』を見るべく、關羽は高地へ登つて、遙に手をかざした。まづ、樊城の城内をうかゞへば、すでにそこの敵は外部を斷たれてから、士氣もふるはず旗色も萎微して、未だに

魏の援軍とは聯絡のとれてゐないことが判る。
また一方、城外十里の北方を見ると、その附近の山陰や、谷間や河川のほとりには、何とかして城中の味方と聯絡をとらうとしてゐる魏の七手組の大將が七軍にわかれて、各所に陣を伏せてゐる樣子が明かに遠望された。
『關平。土地の案内者をこゝへ呼べ』
『——連れて參りました。この者が詳しうございます』
…と、案内者へ向つてたづねた。
『敵の七軍が陣を移したあの邊りは、何といふ所か』
『罾口川と申しまする』
『なほ、附近の河は』
『白河の流れ、襄江の激水、いづれも雨がふると谷々から落ちて來る水を加へて、もつと水嵩を增してまゐります』
『谷は狹く、うしろは嶮岨だが、ほかに平地は少いのか』
『されば、あの山向うは、樊城の

その仔細をたづねたが、關羽は一言、
『罾口に入るもの生きて能く出でず——といふ語が何かの兵書にあつたが、于禁は正にその死地へみづから入つたものだ。見よ、やがて魏の七陣が死相を呈してくるに違ひないから』
と、いつたのみで、その日以後は、もつぱら兵を督して、附近の林木を伐り、船や筏を無數に作らせてゐた。
『陸戰をするのに、何だつてこんなに船や筏ばかり作らせてゐるのだらう——』
と、將卒はみなこの命令を怪しんでゐたが、やがて秋八月の候になると明けても暮れても、連日の霖雨と長雨が降りつゞいた。
襄江の水は一夜ごとに殖えてゆくばかり漲り出して來る。
白河の濁流もあふれて、諸川みな一つとなり、やがては滿々と四方の陸を沈めて見るかぎり果てなき泥海と化つて來た。
關羽は、高きに登つて、敵の七陣を毎日見てゐた。岸に近いところの陣も、谷間の陣も、次第に增して來る水に移はれて、毎日々々少しづゝ高いところへ移つてゆく——然し背後の山は嶮峻である。もうそれ以上は高く移せない所へまで、敵の陣は山際に押しつめられてゐた。
『關平々々』
『はい』
『もうよからう。かねて申しつけておいた上流の一川。そこの堰を切つて押流せ』
『心得ました』
關平は、一隊をひきつれて、雨中をどこかへ駈けて行つた。襄江の水上七里の地に、更に峡れてゐる一川があつた。關羽は一ケ月も前からそこに數百の部下と數千の土民を派して、この水を築堤で高く堰止め、先頃からの雨水を滿野一面に湛へてゐたのであつた。